

YMS 2018年度 解答速報

日本大学医学部

A方式



解答速報はYMS HP <http://www.yms.ne.jp/> にも掲載しています

【生物（解答）】

1

- 問1 1-③
問2 2・3-①・②（順不同）
問3 4-④
問4 5-⑤, 6・7-③・④（順不同）
8-③
問5 9-①
問6 10・11-③・⑤（順不同）

2

- 問1 12・13-⑤・⑦（順不同）
問2 14-②, 15-⑤,
16・17-②・⑤（順不同）

3

- 問1 18-①, 19-④, 20-⑦
問2 21-①, 22-①
問3 23-③, 24-④, 25-③, 26-②,
27-⑦, 28-②, 29-④

4

- 問1 30-⑧
問2 31・32-①・⑥（順不同）
33-④ [別解]⑤

5

- 問1 34-①, 35-⑥
問2 36・37-②・⑥（順不同）
問3 38-②
問4 39-⑥

【生物（講評）】

昨年は大問 6 題で、例年よりも大問が 1 題多かったが、今年は例年通りの大問 5 題に戻った。例年通り、高度な考察問題や煩雑な計算問題がなく、知識問題の割合が高いため、解答に時間はかからないが、選択に戸惑う問題が幾つか含まれており、そこで差がつく。

1 リボソームとタンパク質に関する問題。rRNA、タンパク質の化学結合や立体構造、モータータンパク質について問われた。基礎的な知識問題であった。

2 細胞分裂と細胞周期に関する問題。問 1 は細胞分裂の正誤問題で基本的であった。問 2 は、卵細胞質抽出液に精子の核を加え、細胞周期にともなう現象について考える実験考察問題で、ここで差がついたであろう。

3 ヒトの老化に関する問題。老眼、老化に伴う難聴や反射の遅れについて問われた。老化という点では医学部らしい出題であるが、基本的な知識さえあれば正解できる。

4 植物の花芽形成に関する問題。問 1 は、長日植物が花芽形成される選択肢を選ぶ問題で、基本的。問 2 は、短日植物の花芽形成について、葉や環状除皮の有無に関する実験問題であり、センター試験などでも多々出題されている典型問題であるが、やや解答しにくい。

5 生物多様性に関する問題。問 3 が少し迷うが、生態的地位が近い種でも、すみわけや食いわけにより競争を回避し、共存可能であることから②を選ぶことができる。

全体として、昨年よりも問題数が減り、解答に時間を取られる問題もほとんどないので、易化したといえる。解答に要する時間は 30 分程度であり、時間的にはかなり余裕がある。一次合格には 85%以上の得点が望まれる。